

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	物理学Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)・選択科目(建築コース)・選択科目(デザインコース)						
担当者	中野 吉正						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・歪の種類とそれらを数学的に記述する方法を説明する。 ・応力の定義を説明し、応力テンソルの性質を導く。 ・弾性体を伝える波の速さと弾性定数の関係を導く。 ・理想気体の等温過程tp断熱過程における体積・圧力・温度の関係を説明する。 ・熱機関の原理を説明し、その効率を計算する。 						
日程と内容	<p>9月14日 導入、応力とは 9月19日 応力の表現 9月28日 歪みとは、歪みの表現 10月 5日 弾性体のエネルギー 10月10日 静止流体の圧力・浮力 10月19日 弾性体を伝える波（波動方程式） 10月26日 弾性体を伝える波（反射と透過） 11月 2日 温度と圧力、ボイル・シャルルの法則 11月 9日 状態量と状態方程式 11月16日 熱力学の第1法則 11月30日 比熱・理想気体の断熱変化 12月 7日 カルノーサイクル 12月14日 熱力学の第2法則 12月21日 総合復習（弾性体） 1月18日 総合復習（熱力学） 1月28日 定期試験</p>						
成績評価基準	28nichi 臨時試験 報告書・レポート 課題 演習	60%	実技 部外評価 プレゼンテーション				40%
			計				100%
授業到達目標の達成度	到達目標は授業をとおしてすべてカバーすることができた。ただし、応力テンソルの性質のうち、その一部については結果のみを述べた。学生の到達度は、課題と定期試験によって確認できた。						
反省点	学生証による出席管理システムがあらたに導入され、その弊害が如実に出了たクラスであった。（出席入力数と出席者数が大幅に異なる。）実際には出席をしていない学生に対処するよい方法を最後まで見いだせなかった。						
来年度の計画	カリキュラム改定により新科目に統合。						
授業評価アンケートに対するコメント	昨年度にくらべて大幅に受講者が増えたが、その分だけ熱意の感じられない学生が多かったようである。						
履修登録者数	51名	定期試験 受験者数	47名	合格者数	36名	合格率	77%